

## 5 視点5「環境づくり」

### (1) 他国の文化に触れる校内掲示

#### ア 全校でのハロウインの取組

10月のハロウインに向けて、学校全体で日程を決めて、各学年でイベントを行った。各児童が持ってきた仮装を身に付けたり、ハロウインの始まりを動画等で学習したりして外国の文化に触れ親しむことができた。この時期は、校舎のいたるところにハロウインに関する掲示物を貼ることでハロウインを楽しむことができた（資料19）。



資料19

ハロウインの校内掲示

#### イ クラスルームイングリッシュによく使う英語のフレーズの掲示

クラスルームイングリッシュとしてよく使う英語のフレーズを、児童が毎日使う階段に英語と意味を掲示し、日頃から慣れ親しませることで、実際に授業の中で使う時の抵抗感を少なくすることを目指した。できるだけ前向きな表現を掲示することも心掛けた（資料20）。



資料20

よく使う英語フレーズの掲示

### (2) 言語環境の充実

#### ア 学習した内容が分かる掲示の工夫

各教室等に「Englishコーナー」を設け、授業中の板書に利用した表現を各教室等に掲示した。1年生では、色や動物の学習について、2年生では、学習したフレーズを掲示した。また、6年生では、学習した内容を階段の踊り場に掲示することで、6年生以外の学年が、6年生の学習内容を知る機会とした（資料21）。



#### イ 学校生活の場面での英語の使用

英語を日常の生活の中で使うことで、学習した内容が定着すると考えた。プリントを配る際に、自分の列の人数を英語で尋ねるなど、英語の時間以外の時にも学習したことを使うことを心掛けた。児童は、図工の



資料21 Englishコーナー

時間に画用紙をもらう時に、「画用紙、please」と、英語で会話するなど、英語の時間以

外で英語を使う姿が見られた。

### (3) 特別活動における主体性

#### ア 縦割り班活動

進んでコミュニケーションを図ろうとするためには、児童が主体的に考え、行動し、他者と関わろうとするような活動を行うことが必要と考えた。そこで児童会を中心に代表委員会で話し合いをもち、縦割り班対抗のドッジボール大会を行った（資料22）。



資料22 縦割り班活動の様子

### (4) 保護者や地域への啓発

ア 学校での学習の様子や行事の様子については、学校のホームページ等で保護者や地域に発信している。英語については、研究授業での様子などを発信するほかに、教育課程特例校としての実践を紹介している。保護者や地域から児童の学習や生活の様子がよくわかりとてもよいという評価をいただくことができた。

### (5) 成果と課題

#### ○成果

児童は、外国のイベントを体験することで、より英語への関心を高めることができた。また、よく使う英語のフレーズを掲示したり、学習した内容を残したりしておくことで、学習したことを使って会話しようとする姿が見られた。さらに、英語の時間以外でも、自分から英語を使う場面が見られたり、他の学年の学習に関心を持ったりするなど、英語に慣れ親しむことができた。

#### ○課題

すべての児童が、進んでコミュニケーションを図ろうとしているわけではない。他国への興味・関心を高める環境づくりとして、実際に外国での体験などを見たり、聞いたりする機会を増やすことが必要である。さらに、進んでコミュニケーションを図りたくなるような児童同士の関係づくりに取り組んでいくことが必要である。